

2.平成21・22年度丹波綾部道路関係遺跡

発掘調査報告

(井脇城跡)

1. はじめに

この報告は国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所が計画・建設する丹波綾部道路埋蔵文化財調査に伴う井脇城跡の発掘調査報告である。

井脇城跡は、京都府のほぼ中央部、船井郡京丹波町にある中世山城で、標高およそ300mを測る最高所に井脇城の中心施設がある。そこには複数の曲輪や尾根部を断ち切る堀切などが設けられている。地元では瀧谷の城などともいわれているが、これまで個人研究で縄張り図の作成などはなされてきたが、発掘調査は初めてである。

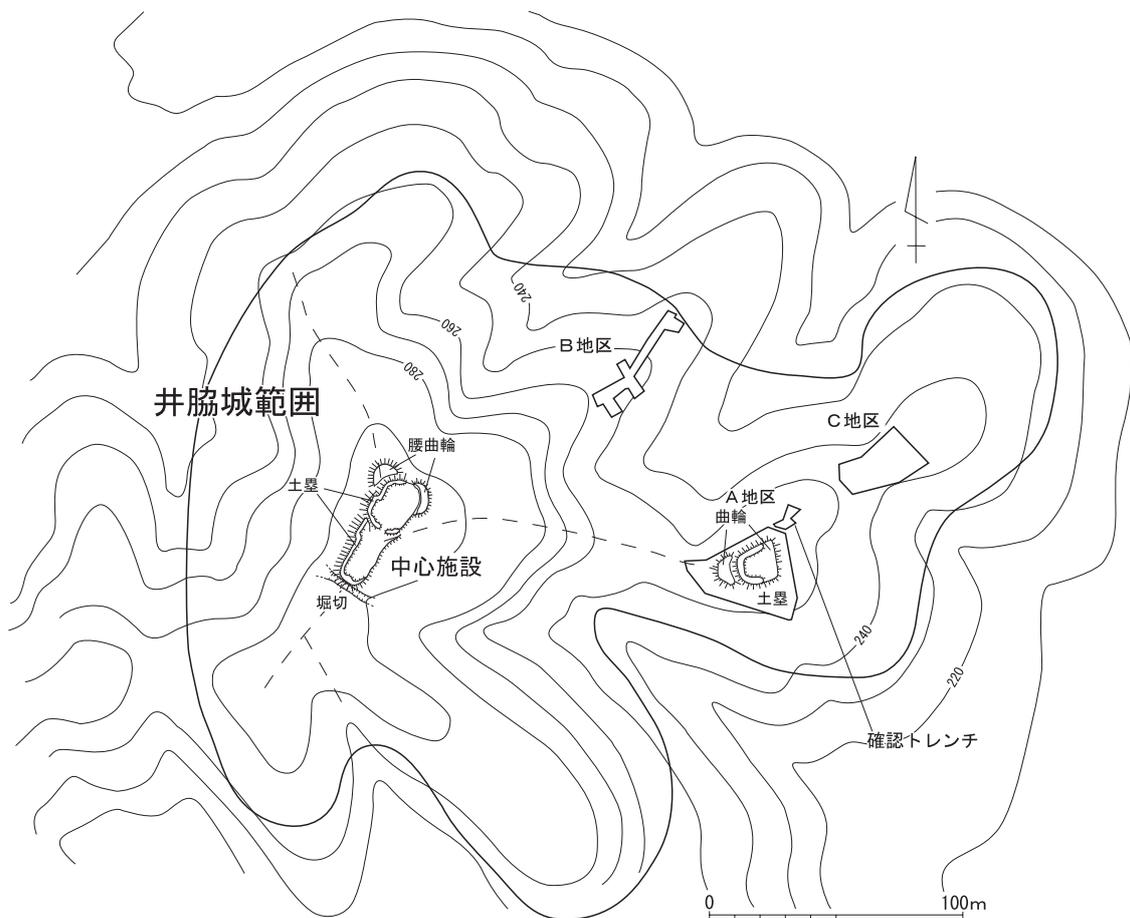


第1図 調査地位置図及び周辺山城分布図(国土地理院 1/50,000 綾部)

今回の調査地であるA・B・Cの3地区は、中心施設より30～50mほど下がった地点で、中心施設の北東および東側にあつて、山城の防御・攻撃といった機能の中で重要な役割を担っていたと考えられる。特にA地区は、周囲から独立するかのようにはほぼ方形に成形された曲輪をなしており、その平坦部の三辺には人工的な土盛り(土塁)が構築されていた。

現地調査は、平成21年度の調査としてA地区およびB地区の調査を、平成22年度の調査としてC地区の調査を実施した。調査掘削面積はA地区1,200㎡、B地区200㎡、C地区500㎡の合計1,900㎡である。本報告は黒坪が執筆した。

現地調査責任者	調査第2課長 肥後弘幸
調査担当者	調査第2課課長補佐兼調査第1係長 小池 寛 同 総括調査員 田代 弘 同 専門調査員 黒坪一樹
調査場所	船井郡京丹波町井脇瀧谷
現地調査期間	平成21年10月22日～平成22年2月25日(A・B地区) 平成22年5月6日～7月6日(C地区)
調査面積	1,900㎡



第2図 井脇城跡中心施設及び調査地区配置図

2. 井脇城跡の中心施設について

井脇城跡の中心施設は、標高約300mの最高所にあり、丹波綾部道路の路線範囲からは外れている。井脇城跡の施設を現状の中で押さえておくことは、今後の井脇城跡および周辺の山城跡を研究していく上で必要である。そこで、目視と巻尺により計測し、縄張図を作成した(第2図)。この図を元に中心施設の内容を若干スケッチしておきたい。

山頂付近は大きく2段に成形された曲輪が北東-南西に並んでいる。北側の曲輪がひときわ高所に位置する。この曲輪の北側および北東側には、三日月形となった腰曲輪が確認できる。

中心施設の曲輪2面を合わせた広さは東西50m、南北16mのおよそ800㎡を測る。そしてそこには東辺を除く北・西・南の3辺に土塁が築かれている。方形曲輪の南西側には、幅2m、長さ12mほどの堀切がみられ、防御をさらに堅くしている。北西・南東側は急峻な斜面となっており、そうした地形がそのまま防御の機能を果たしたのであろう。山頂周辺には、これ以外に顕著な施設は見受けられない。堀切より西側の尾根をさらに辿っても自然地形が続くばかりである。

今回調査地は、中心施設から北東に張り出す尾根上(B地区)と、大きく段を成した上で東側に延びる尾根筋上(A地区・C地区)に位置する。

3. 調査成果

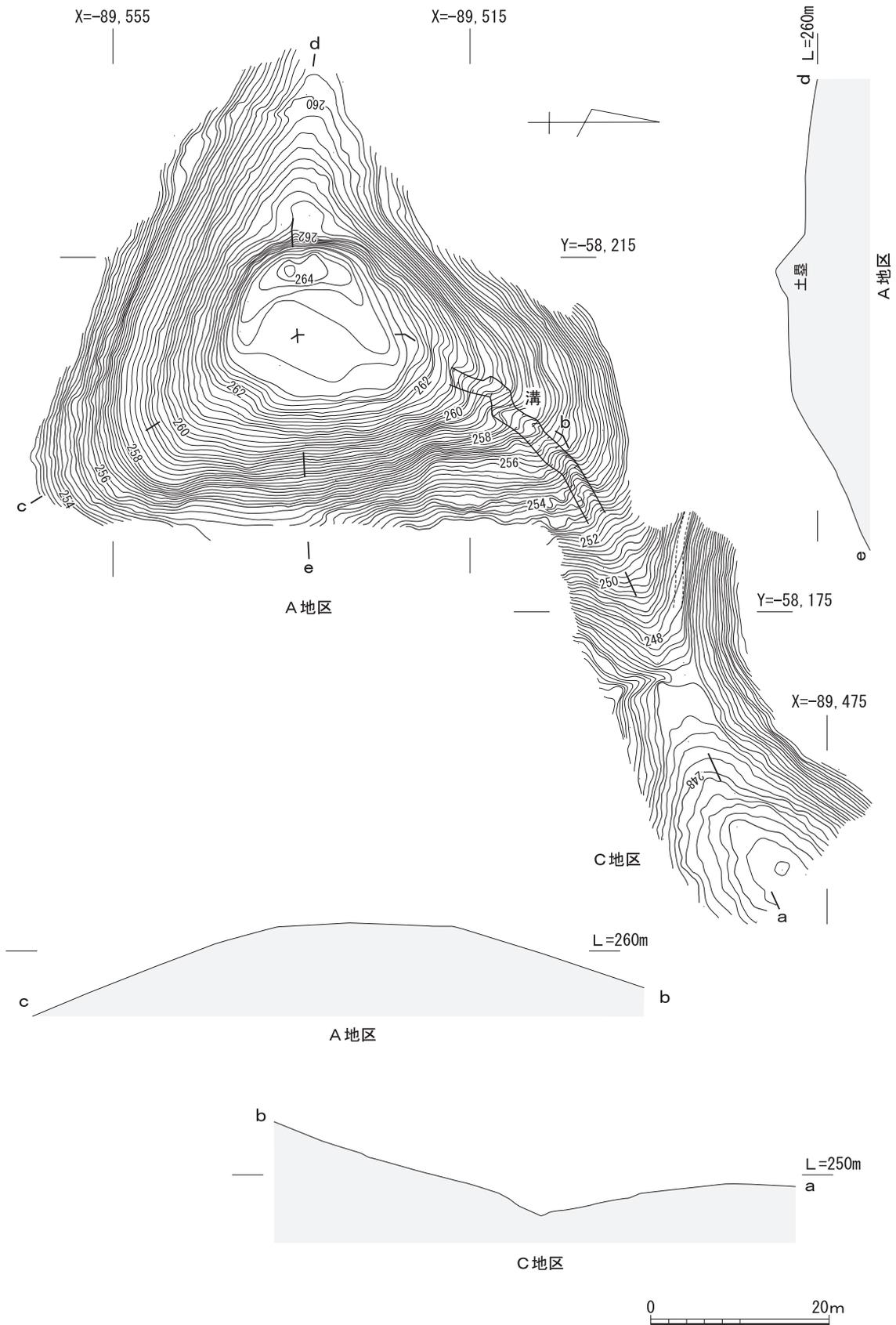
1) A地区

A地区は、中心施設から東~南東方向に延びる尾根部を大きく改変し、斜面上位の土砂を削って北西側に盛り付け、周囲から独立した曲輪を造成している。標高は264.2mを測る(第3図)。この頂部平坦面からの見晴らしは非常に良好で、東側谷部を広く見通せる。曲輪の頂上は、東西18m×南北21mのほぼ方形をなし、およそ380㎡以上の広い平坦地を確保している。この平坦面の南・西・北辺の3辺を囲うように土塁が設けられている。調査前の土塁は、下幅5m、上幅2.4m、高さ0.5~0.8mで、北辺9m、西辺11m、南辺10mで、総長30mを測る。平坦部を中心に、曲輪の斜面を含めて、1,200㎡の範囲を調査した。

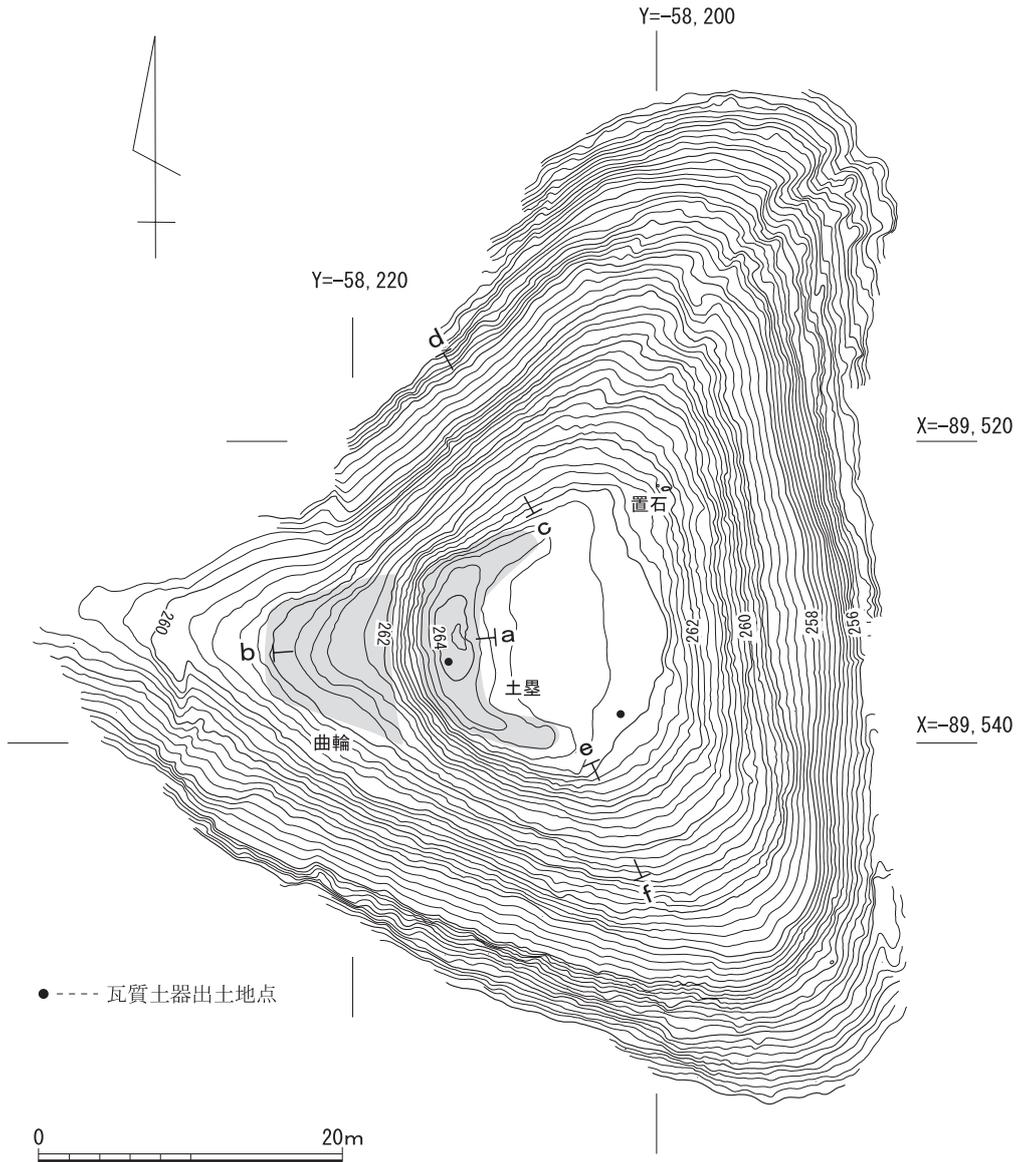
曲輪の施設としては土塁以外はなく、黒色腐植土(表土)が約15cmの厚さで堆積し、それを掘削すると硬い岩盤(地山)面となった。平坦部では、柱穴などの遺構は検出できなかった。唯一、曲輪平坦部の北東部には置石がなされていた(第5図)。石の大きさ長さ60cm、幅42cm、厚さ16cmである。石の上面は平坦になっている。加工はなく、泥岩質の自然石である。曲輪の虎口を構成する門を支えた礎石の可能性はある。

土塁は、南・北辺の端部は築造された時よりもかなり風化・流失していたが、西辺中間部での最大高は約80cmを測る。その断面の土層観察から、20~25cmの厚さで土を内側から外側に向けて斜めに積み上げ、さらに補強するように外側から土をブロック状に盛り上げているのが確認された(第7図上・図版第12)。この土塁は最終的に、すべて除去した。その結果、土塁が築かれていた範囲の西側と北側は、多量の礫混じりの土で造成されていることがわかった(図版第13)。

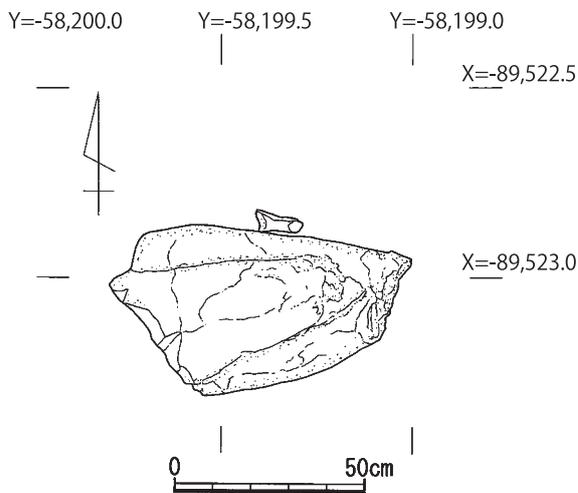
また、斜面部の掘削については、土層の確認のために断ち割りを行った部分以外では、曲輪を



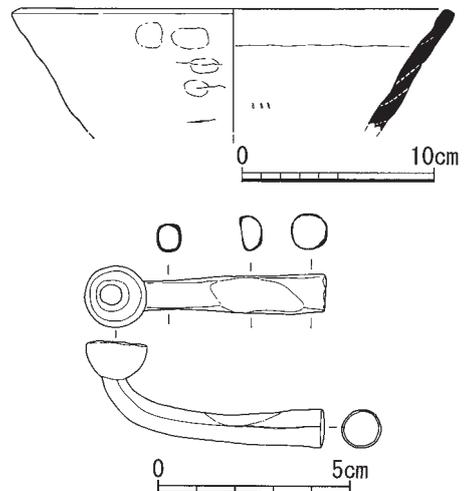
第3図 A・C地区地形図(掘削前)



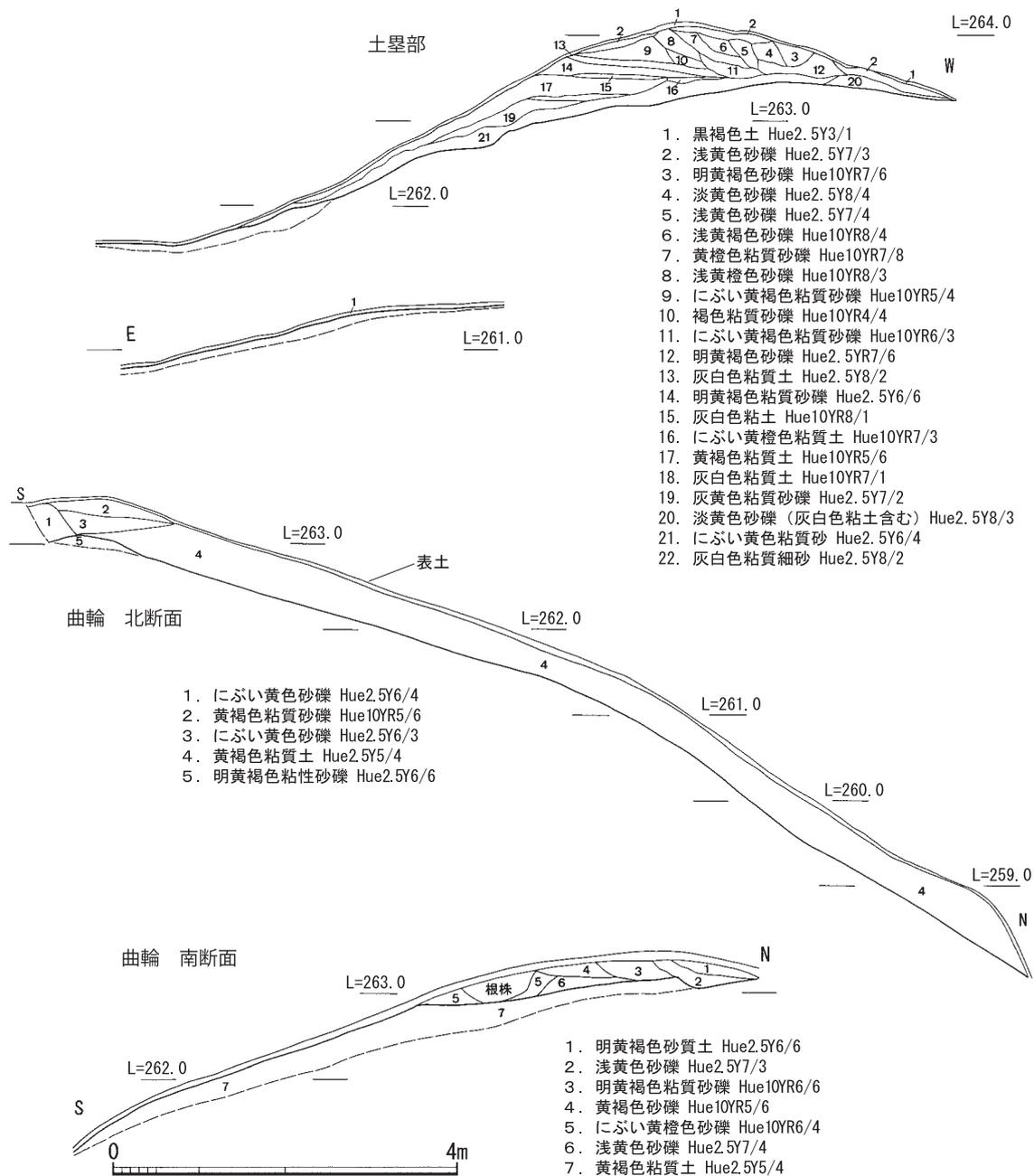
第4図 A地区地形図(掘削後)



第5図 A地区置き石



第6図 A地区出土遺物実測図

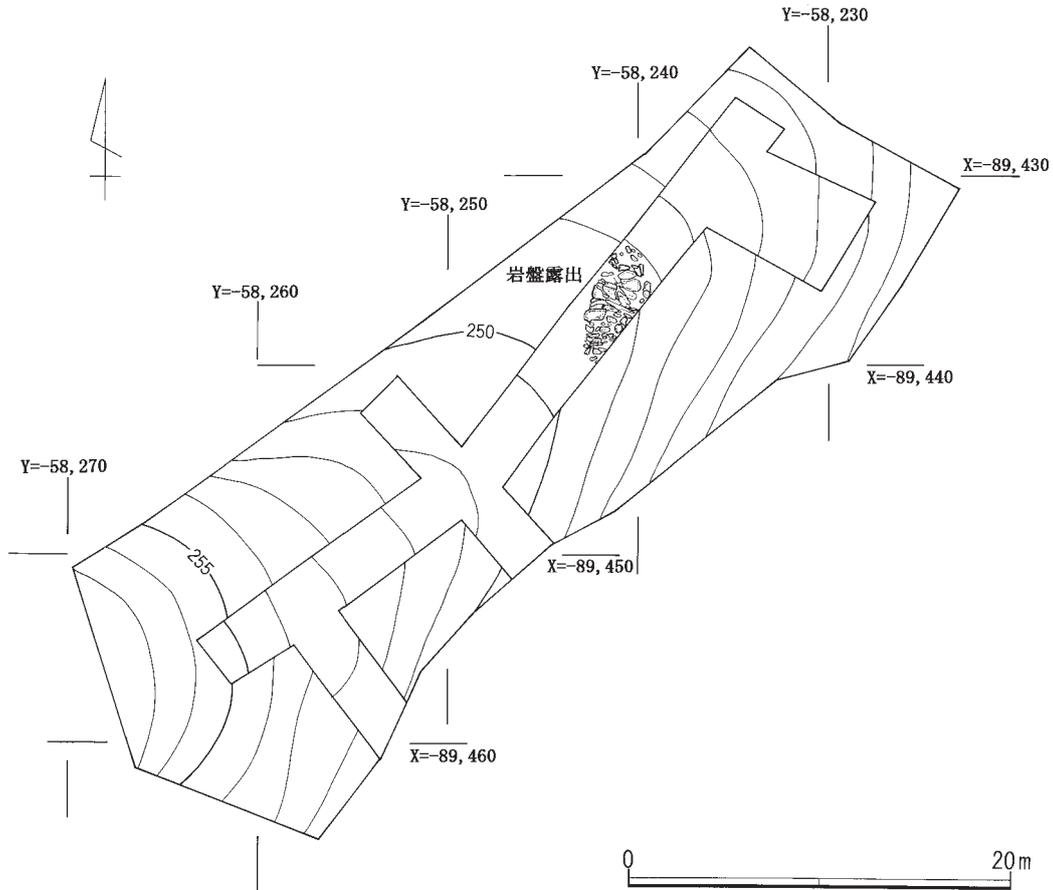


第7図 A地区曲輪・土塁断面図

造成した盛土をそのまま残し、山城として成形された当時の状態までを掘削した(第4図)。

なお、東側のC地区との間の斜面には、コンターに直交する方向で、地割れのような溝が長さ24m、幅1.3～2m、深さ20cmにわたって認められた。山城に関する遺構であるかを確認するためのトレンチを入れたが、新しい時期(近現代)の道であると判断した(図版第15)。

出土遺物には、頂部南東部から瓦質土器の破片1点と、土塁掘削中に同質の瓦質土器の破片1点がある。土塁築造中の盛土内に混入したものである。瓦質土器は、復元径23.2cm、体部厚7mmを測り、内面に播り溝をもつ播鉢であろう(第6図上、図版第16)。瓦質の播鉢については大系的な編年はなされていないが、およそ戦国時代にあたる16世紀前半とみられる。^(注)その他の出土



第8図 B地区平面図

遺物を欠くことから、この曲輪の築造年代の下限を16世紀前半としておきたい。

さらに、煙管の雁首1点、肥前系磁器碗破片1点が出土した(第6図下、図版第16)。これらは表土中からのもので、江戸時代後期のものといえる。煙管の雁首は、長さ6cmを測る。肥前系陶磁器は18世紀で網目文の染付け碗である。中世山城に直接関係する遺物ではない。

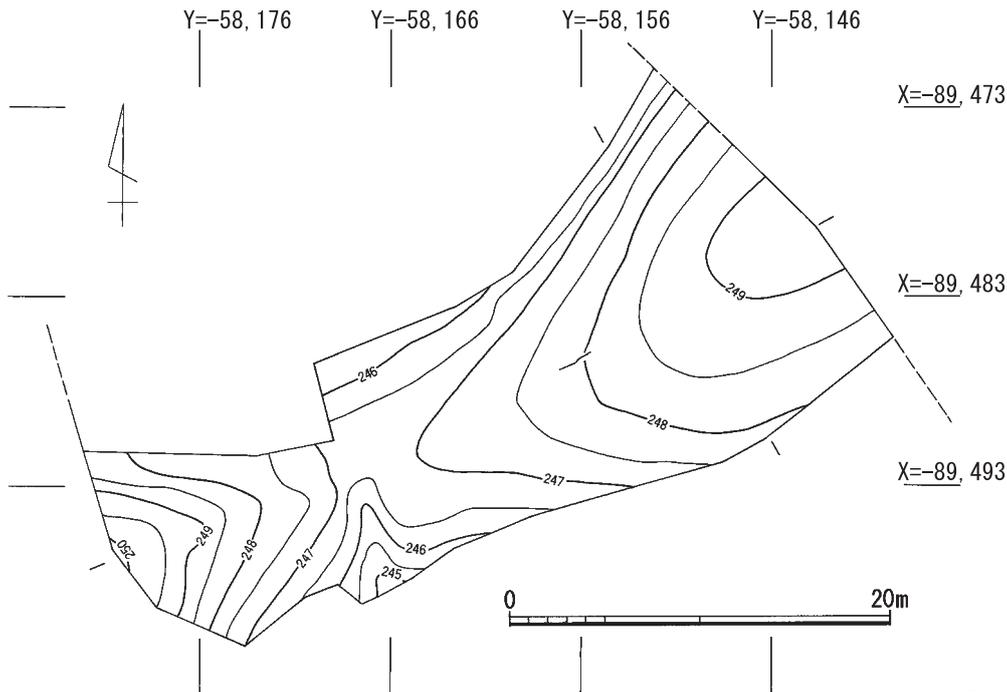
2) B地区

井脇城跡の中心施設から北東方向に下降して延びる尾根筋にある。200㎡のトレンチを設定した。トレンチ内の土層は、表土である黒色腐植土(第1層)および褐色粘質土(第2層)が薄く堆積し、それより下層は地山・岩盤となっていた。幅広くなっている部分や、粘板岩または泥岩の露出しているか所も確認したが、明確な遺構も検出されず、1点の遺物も出土しなかった。岩の露出か所は、岩脈がトレンチを斜めに横切り、幅5.8m、深さは1m以上を測る。

3) C地区

C地区は、A地区からさらに東方向に下降していく幅広の尾根部に当たっている。ここはA地区のある北側尾根部と対峙し、その間の谷部全体を見通せる好位置であるため、櫓跡や建物跡などの存在が想定される場所であった。

トレンチは500㎡を設定し、掘削を行った。層序は、15cmの黒色腐植土(表土)、その下に15cmの褐色砂質土が堆積し、その下層は淡黄色粘質土の地山であった。地山面上で精査したが



第9図 C地区地形図(掘削後)

遺構・遺物は検出できなかった。

4. まとめ

井脇城跡のような中世山城は、京丹波町内だけでも20基近くを数えるが、城主や全体規模・構造のはっきりしない城も多い。城主が伝承されている城としては、出野城(出野氏)、鎌谷城・鎌谷南城(細見河内守)、三ノ宮城(山内久豊)、橋爪城(山内貞通～久豊・盛豊)、井尻城(谷垣兵部)、上野城・須知城(須知氏・須知景光)などがある。

井脇城跡については、築城および居城主は明らかではない。ただ井脇城跡を中間にして同じ谷筋の入り口と最奥に山内氏ゆかりの城と伝えられる橋爪城跡と三ノ宮東城跡・三ノ宮西城跡が存在していることから、井脇城跡周辺は山内氏との強い関係が指摘されている。

今回は、中世山城である井脇城跡の東側に設けられた曲輪の調査で、B・C地区では顕著な遺構・遺物は得られなかったが、A地区において丘陵尾根部に周囲から半ば独立して造り出された曲輪の構造を明らかにすることができた。曲輪頂部は方形に造り出し、西・北・南の3辺には防御用の土塁が築かれていた。出土遺物として、平坦面および土塁内部から出土した瓦質播鉢の破片がある。形態から16世紀のものである。今後、中世井脇城の正面虎口や各方向にのびる曲輪や小口などの施設の解明など、多くの課題が残っている。

注 伊野近富「中世土器の編年」上 (『京都府埋蔵文化財情報』第57号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1995

圖 版

井脇城跡



(1) 井脇城跡全景(南東から)



(2) 井脇城跡全景(北から)

井脇城跡



(1) 井脇城跡全景(北東から)



(2) A地区全景掘削前(北東から)

井脇城跡



(1) B 地区掘削状況(南西から)



(2) B 地区南西半掘削状況
(北東から)



(3) B 地区北東半岩盤(南から)

井脇城跡



(1) C 地区掘削前状況(南西から)



(2) C 地区掘削状況(南西から)



(3) C 地区掘削面(南西から)

井脇城跡



(1) A地区曲輪掘削前(北から)



(2) A地区曲輪掘削状況(北から)

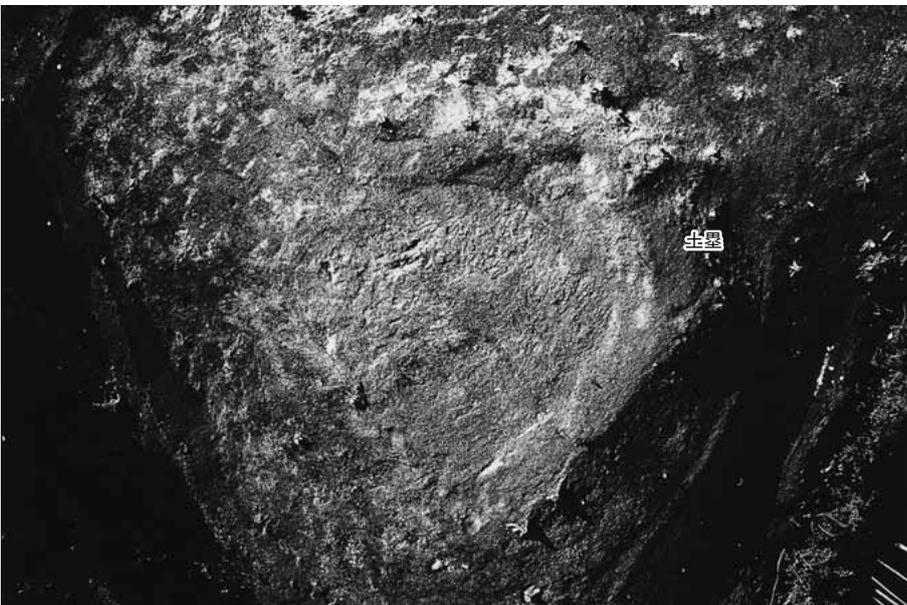


(3) A地区曲輪掘削完了状況
(北から)

井脇城跡

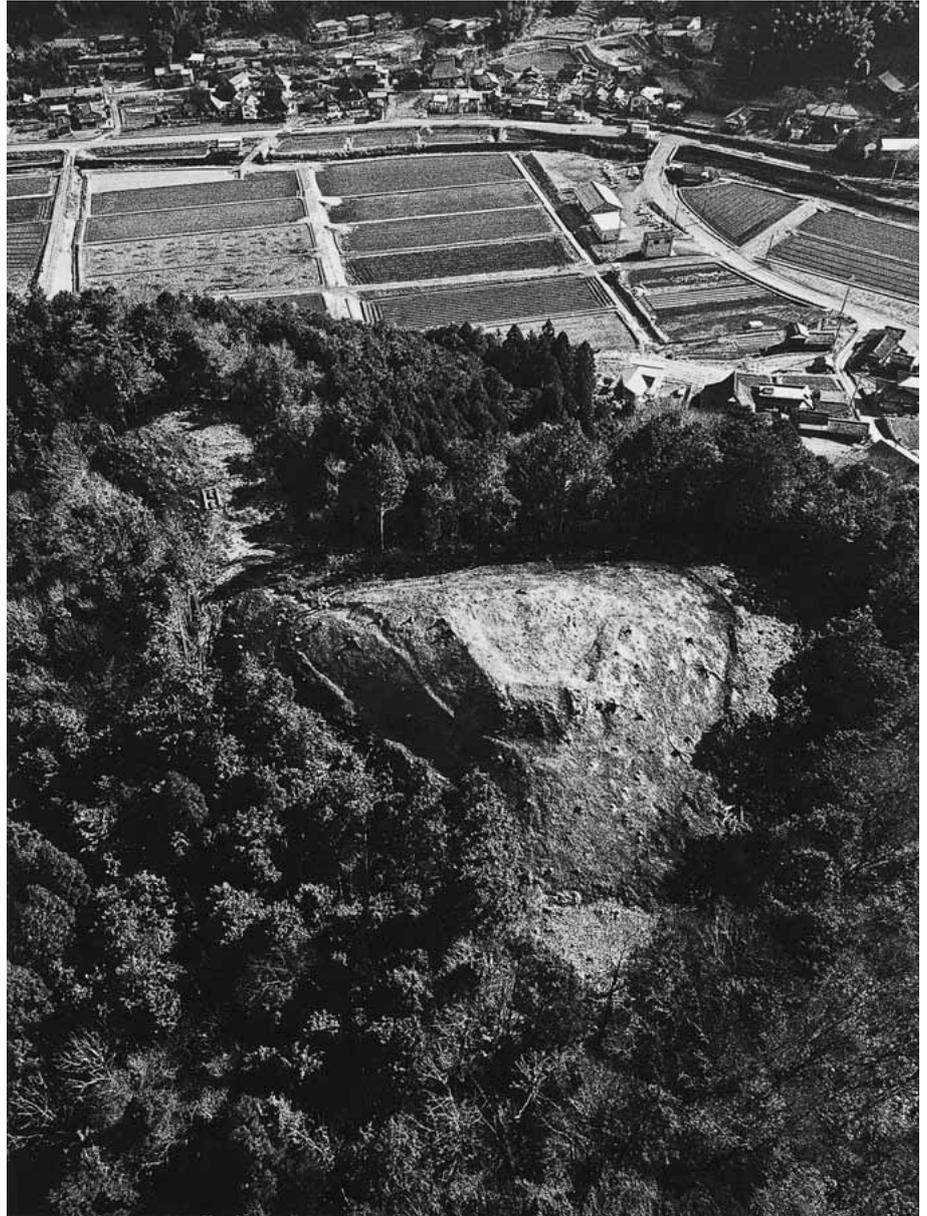


(1) A・C地区全景(北東から)



(2) A地区曲輪頂部(北東から)

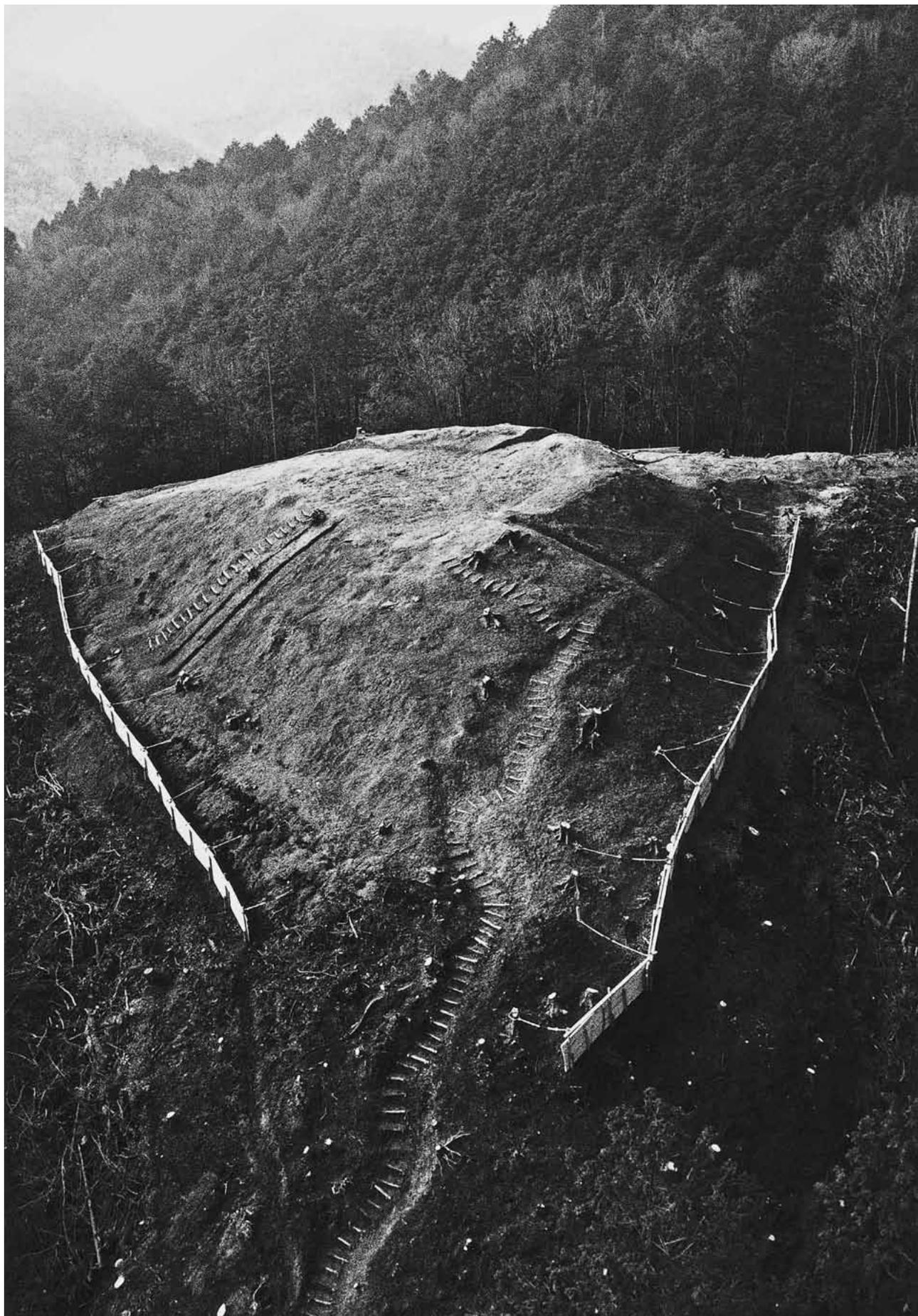
井脇城跡



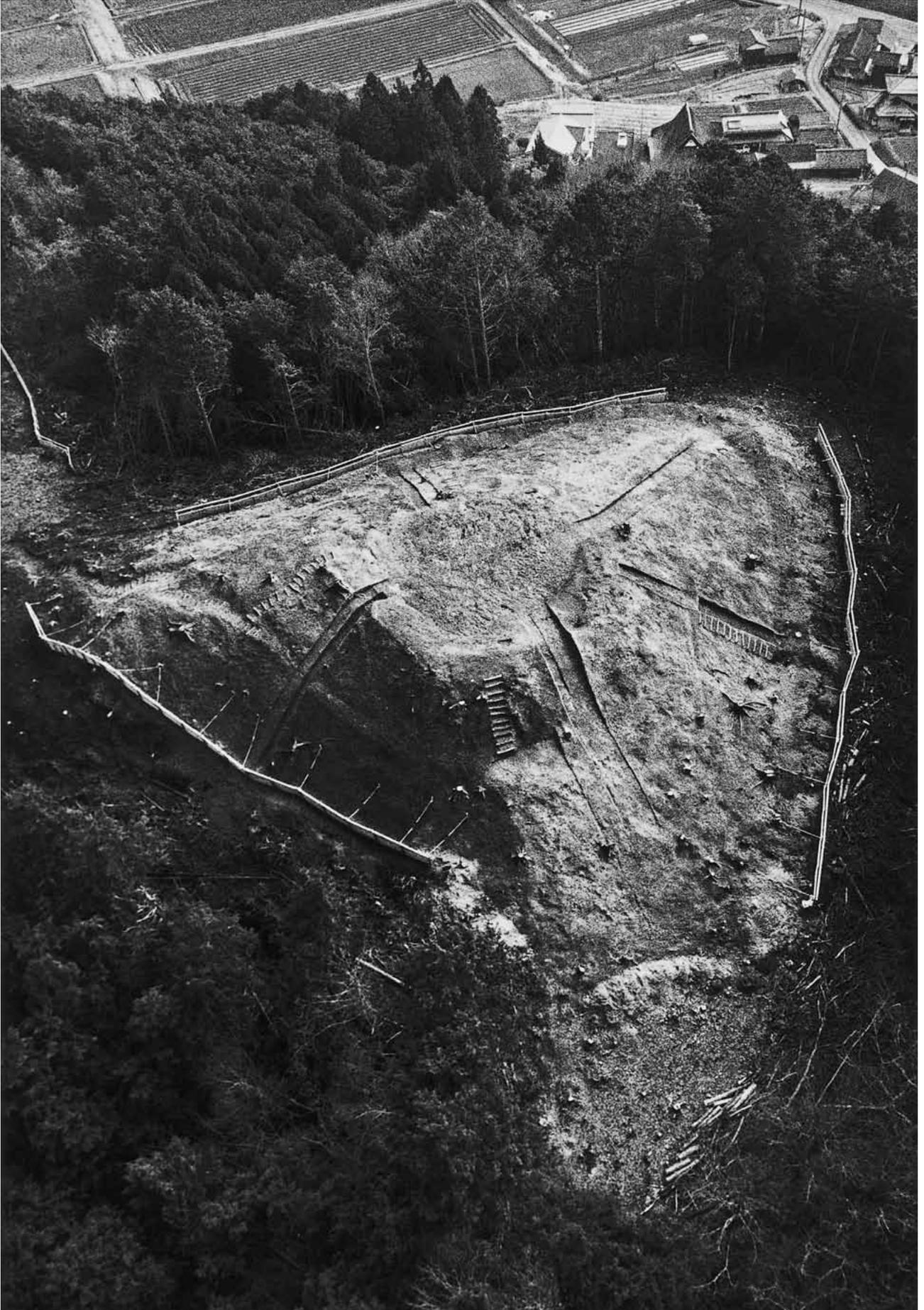
(1) A・C地区全景(西から)



(2) A・C地区全景A地区
掘削完了後(北から)



A 地区曲輪全景掘削完了後(北から)



A地区曲輪全景掘削完了後(西から)



(1) A地区曲輪全景掘削完了後(東から)



(2) A地区曲輪全景掘削完了後(上が西)

井脇城跡



(1) A地区曲輪西側(西から)



(2) A地区土塁内瓦質土器出土状況
(東から)



(3) A地区西側斜面及び土塁断面
(南から)



(1) A地区土塁中央部断ち割り断面(南から)

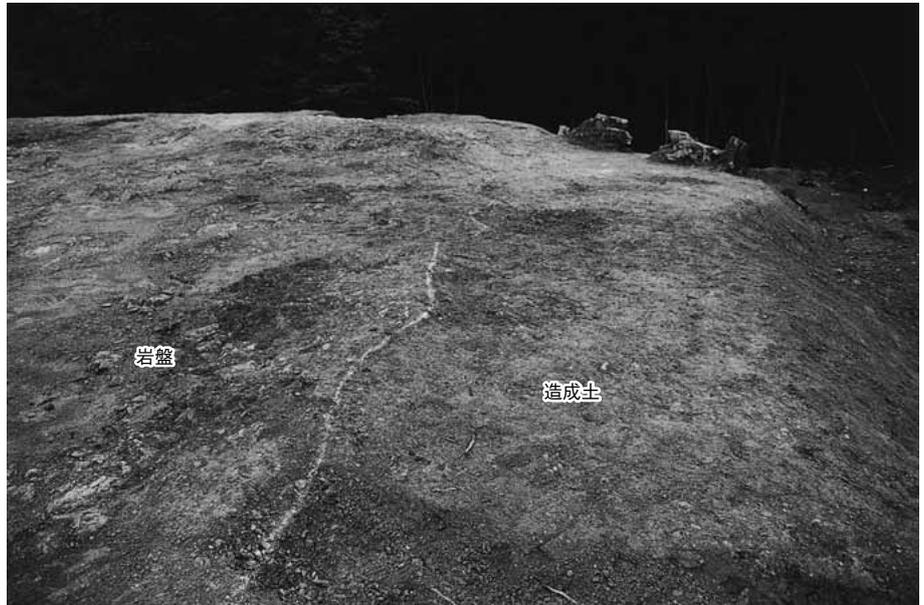


(2) A地区土塁中央部断ち割り断面(南東から)

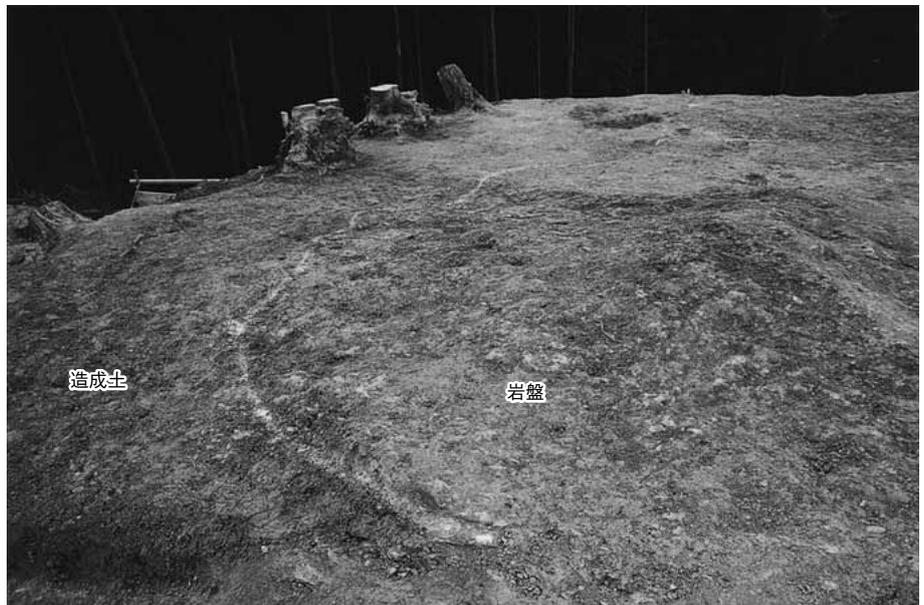
井脇城跡



(1) A 地区土塁北側断面
礫石混入状況(東から)



(2) A 地区土塁掘削除去後(東から)



(3) A 地区土塁掘削除去後(南から)

井脇城跡



(1) A地区曲輪北側断面(東から)



(2) A地区曲輪南側断面(東から)



(3) A地区曲輪南側斜面断ち割り
(南から)

井脇城跡



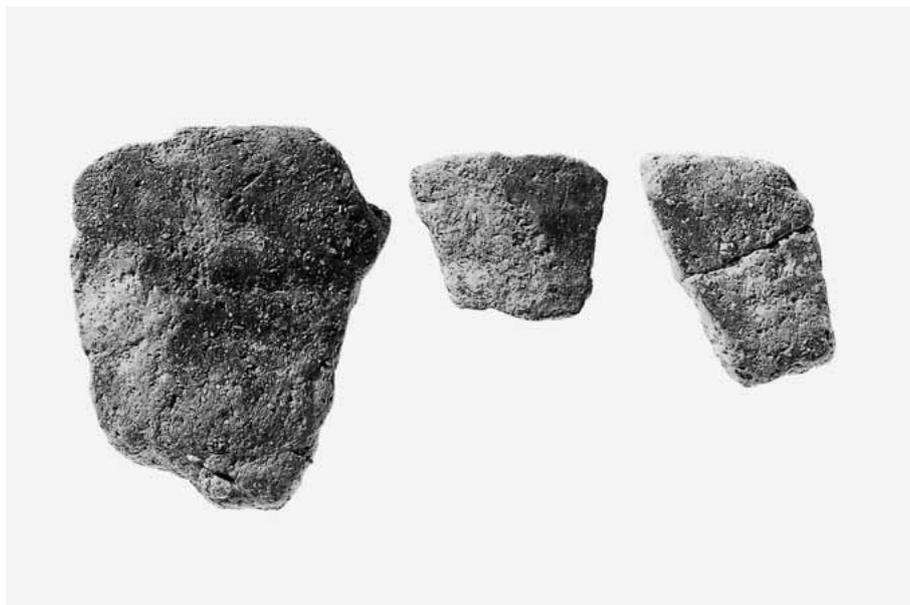
(1) A 地区曲輪北東斜面掘削状況
(北東から)



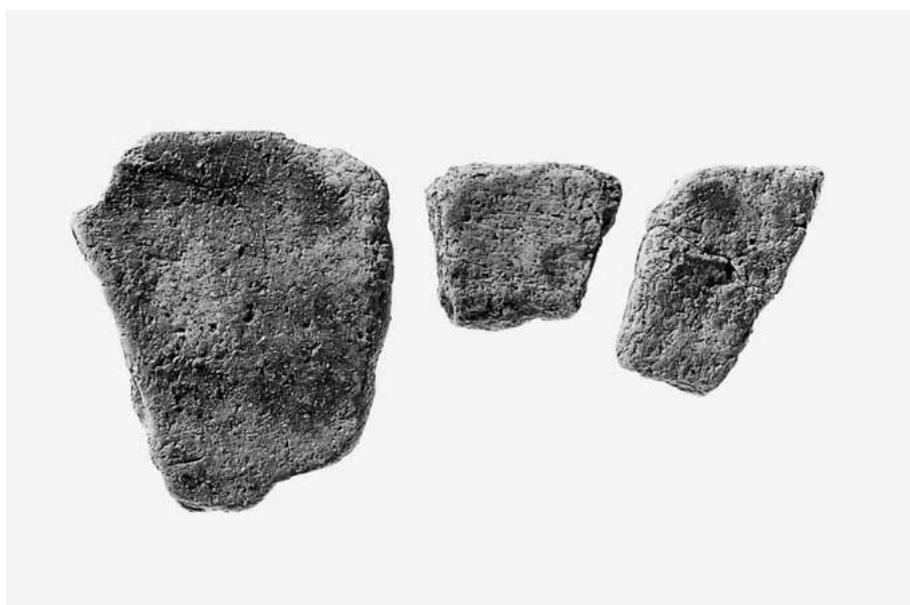
(2) A 地区曲輪北東斜面掘削状況
(北東から)



(3) A 地区曲輪北東隅置石検出状況
(北から)



(1) 瓦質土器片 (右端は土塁内出土)



(2) 瓦質土器片裏面



(3) 煙管、肥前系磁器碗片